



No.4

近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成27年度 第1回

足羽川ダム建設事業

【再評価】

平成27年7月
近畿地方整備局

足羽川の概要(流域の概要)

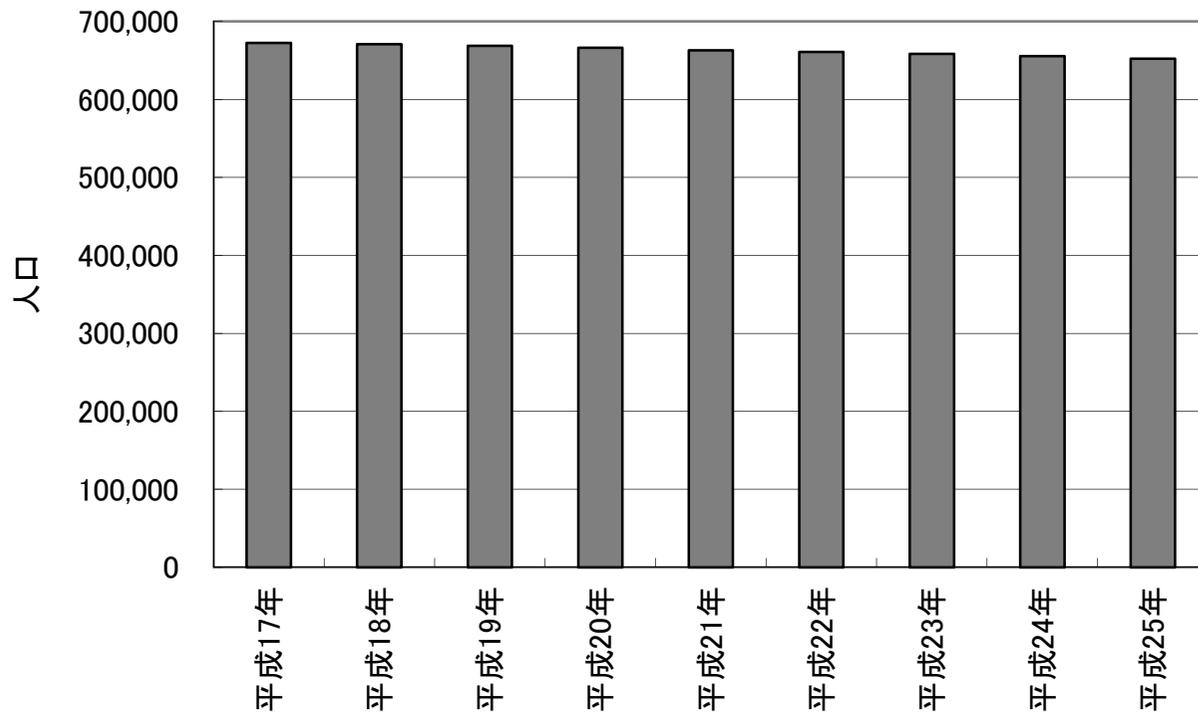
- 足羽川は、九頭竜川水系日野川の支川で、流域面積415.6km²、幹川流路延長61.7kmの1級河川である。
- 福井市街地を流れる足羽川沿川は、人口及び資産が集中し、JR福井駅や県庁をはじめとする各行政機関が設置されており、県内の社会経済活動の中心として重要な役割を担っている。



足羽川の概要(事業を巡る社会情勢)

- 九頭竜川流域内の総人口は微減傾向となるが、前回の再評価以降、人口は約1%減少、資産は約5%増加となっており、大きな変化なし。

流域内人口(流域関連市町村分)の推移



※九頭竜川流域の市町村:福井市,大野市,勝山市,鯖江市,あわら市,越前市,坂井市,永平寺町,池田町,南越前町,越前町(市町名はH22年時点)

【出典】福井県統計年鑑

福井市中心市街地を流れる足羽川



氾濫ブロック内人口等の変化

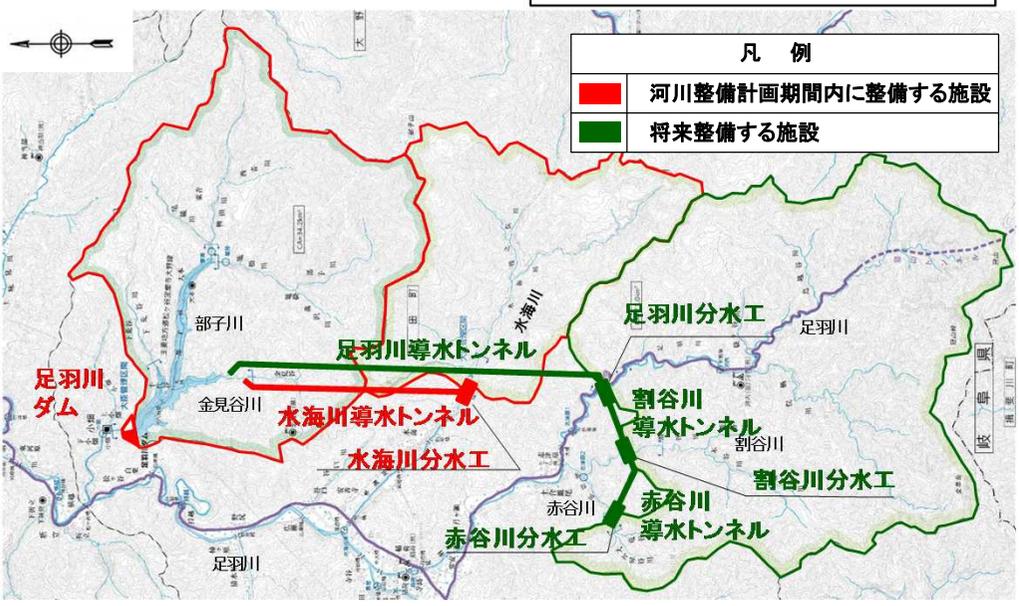
	前回	今回	伸率
人口(千人)	約307	約306	0.99
世帯数(千世帯)	約105	約111	1.06
一般資産額(兆円)	約6.0	約6.3	1.05

【出典】前回:H17国勢調査、H18事業所統計
今回:H22国勢調査、H21事業所統計
伸率:今回/前回

足羽川ダム建設事業の概要 (河川整備計画の主な事業内容)

○ 整備計画期間内において、部子川(池田町小畑地先)におけるダム及び水海川の洪水を導水する分水工及び導水トンネルを整備することで、目標である戦後最大規模の洪水(天神橋地点の流量 $2,400\text{m}^3/\text{s}$)に対して、 $600\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行う。

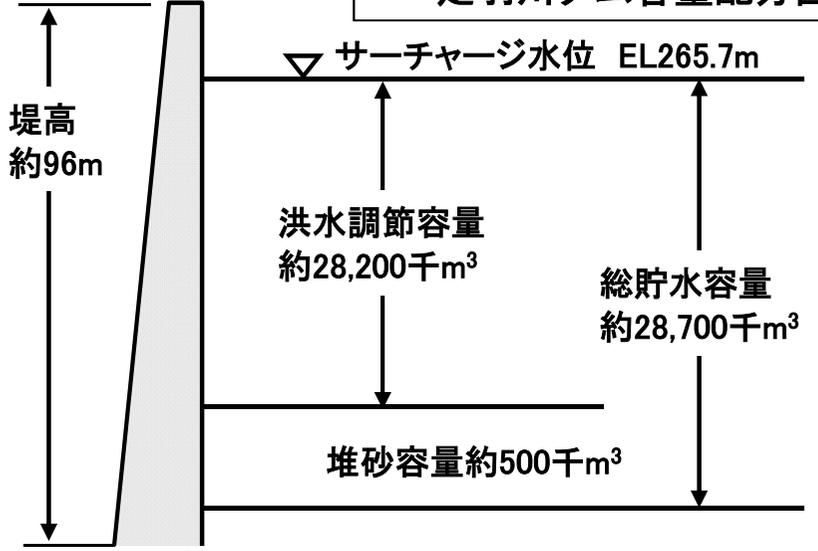
足羽川ダム計画平面図



足羽川ダムの諸元

	河川整備計画対応	河川整備基本方針対応 (参考)
場 所	福井県今立郡池田町 小畑地先	同左
ダム形式	重力式コンクリートダム	同左
堤高	約96m	同左
堤頂長	約460m	同左
貯水面積	約94ha	同左
洪水時 最高水位	標高265.7m	同左
貯留容量	約28,700,000 m^3	同左
分水施設	水海川分水堰を整備	水海川分水堰に加え、 足羽川分水堰、 割谷川分水堰、 赤谷川分水堰を整備
導水施設	水海川導水トンネルを整備	水海川導水トンネルに加え、 足羽川導水トンネル、 割谷川導水トンネル、 赤谷川導水トンネルを整備
総事業費	約960億円	—

足羽川ダム容量配分図



前回評価時からの変更点

○ 前回の再評価以降、事業の目標、期間、事業費、諸元に変化がなく、事業の投資効果分析を省略。

	前回評価時	今回評価	備考
整備目標	戦後最大洪水 (平成16年7月洪水(福井豪雨))	同左	
事業期間	昭和58年度～平成38年度	同左	
総事業費	約960億円 (なお、ダム検証時は約982億円)	約960億円	
事業諸元	ダム、分水施設の建設	同左	

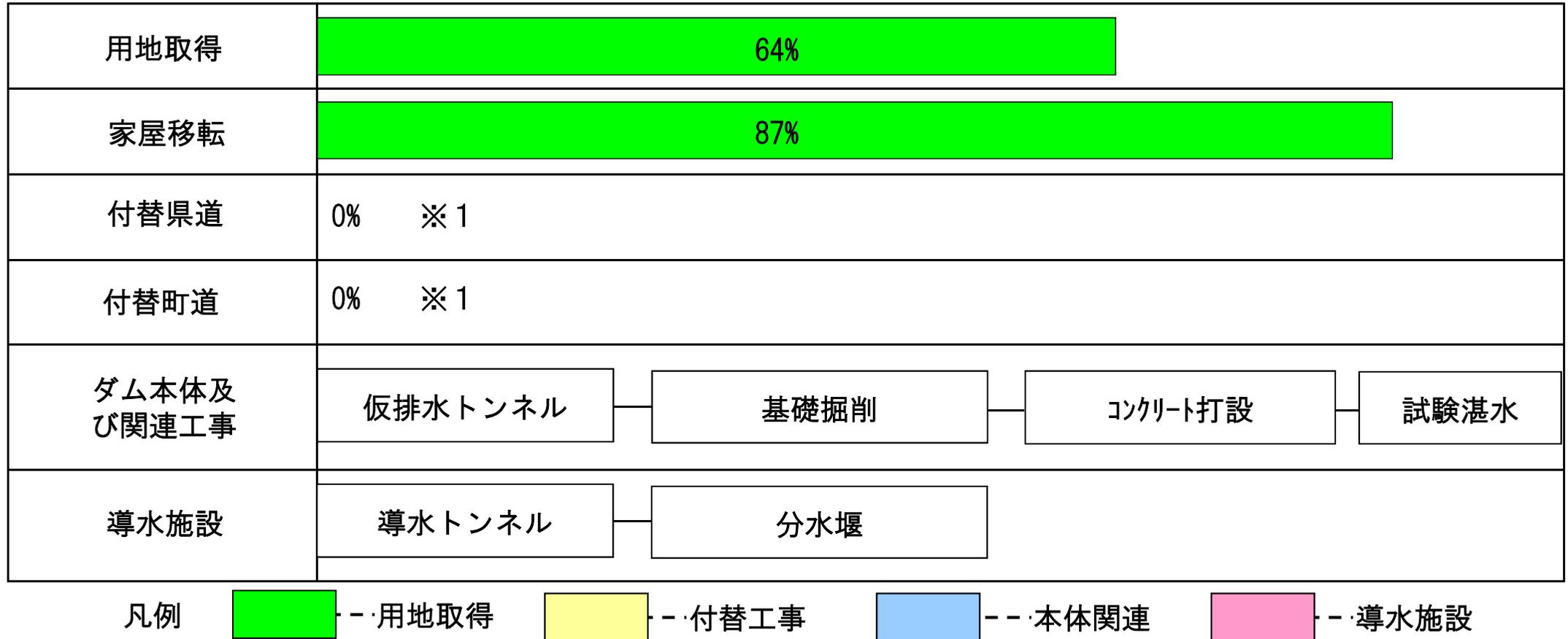
再評価の視点

再評価の視点	現在の状況	備考
事業の必要性に関する視点		
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	社会経済情勢等に大きな変化がない	流域における想定はん濫区域内の総人口は、前回評価時より約1%減、又世帯数は、約6%増、一般資産で約5%増
2) 事業の投資効果	社会経済情勢等に大きな変化がないため算出を省略	前回 全体 B/C 1.3 残事業 B/C 1.8
3) 事業の進捗状況	工事中道路の工事を実施中、進捗率(事業費) 約25%	平成26年度末までの投資額: 約243億円
事業の進捗の見込みの視点	当面は、引き続き付替工事の延伸、工事中道路の整備を進めていく	
コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減: 設計段階、施工段階で新技術の採用によりコスト縮減に努める ・代替案立案: 前回評価時点と変化なし 	

事業の進捗状況

- 現在、生活再建工事段階とし、事業に必要な用地取得、工事用道路、付替県道松ヶ谷宝慶寺大野線の道路工事を実施
- 平成26年度末までに事業費約243億を投資しており、進捗率は約25%

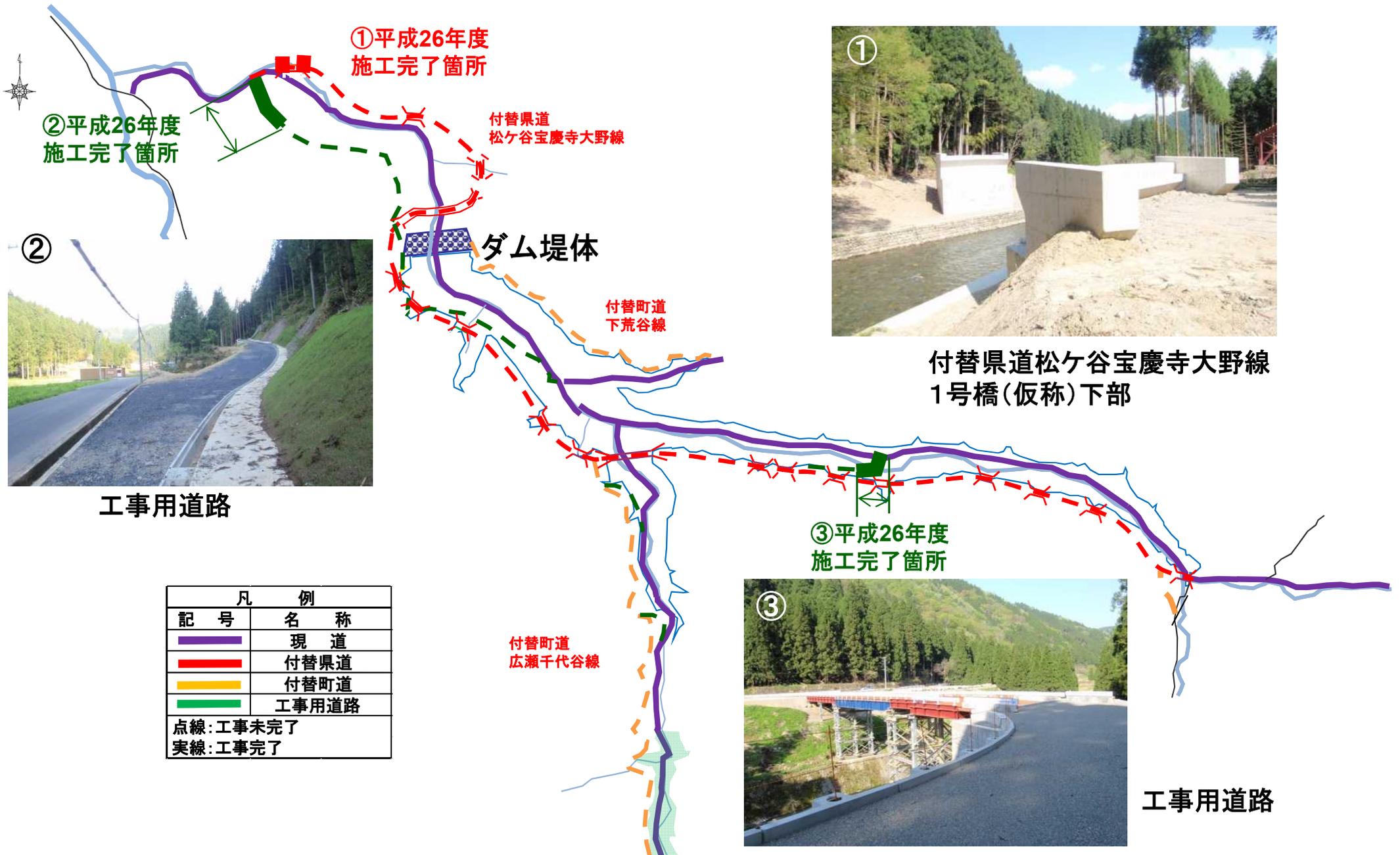
(平成27年3月末時点)



※1 路体盛土、橋梁上部工を含む工事が未契約のため、進捗は0%

事業の進捗の見込みの視点

○ 今後は、引き続き、工事用道路、付替県道松ヶ谷宝慶寺大野線の道路工事を進める。



コスト削減の可能性の視点

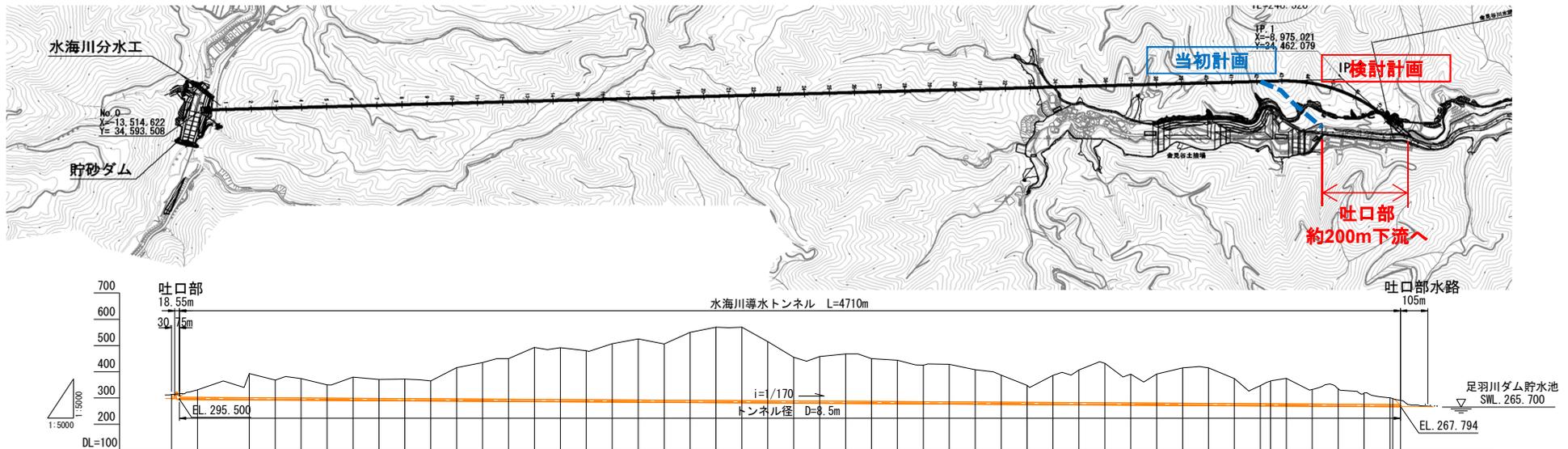
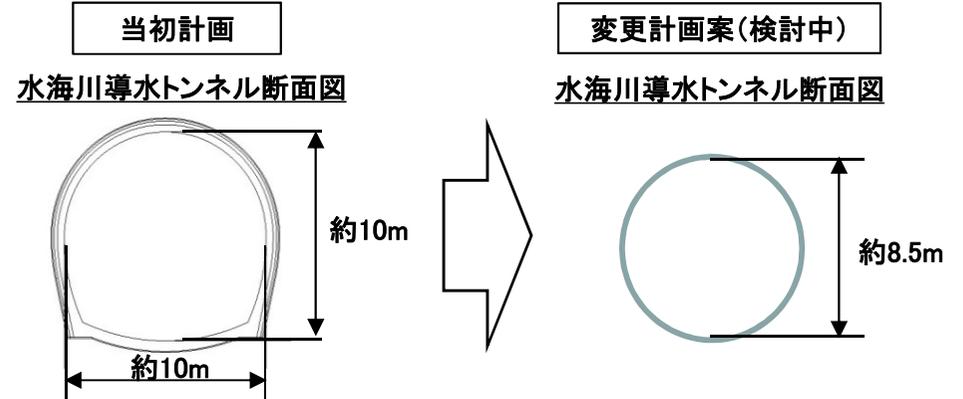
- 水海川導水トンネルの吐口位置の標高を下げることにより、流速を見直す等、トンネル断面を縮小することで、コスト削減を行う。今後も、学識経験者等で構成する「足羽川ダム建設事業費等監理委員会」において、コスト削減策についてご意見を頂き、設計段階、施工段階における新技術の積極的な採用もあわせ、更なるコスト削減に努める。

【当初計画】

水海川導水トンネル（部子川～水海川）
 区間距離：約4.5km
 トンネル径：約10m
 掘削土量：約50万m³

【変更計画案（検討中）】

水海川導水トンネル（部子川～水海川）
 区間距離：約4.8km
 トンネル径：約8.5m
 掘削土量：約36万m³（▲約14万m³）



自治体の意見等

福井県知事(平成27年6月26日付 土政推第158号)

足羽川ダム建設事業の対応方針(原案)「事業継続」については異存ありません。

引き続き事業を推進し、早期完成に努められるとともに、事業の実施にあたっては建設費用の更なる縮減を図っていただきたい。

対応方針(原案)

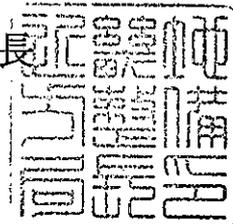
前回の再評価以降も事業の必要性は変わっておらず、今後も事業の順調な進捗が見込まれること等から、平成38年度の事業完成に向けて、引き続き「事業を継続」することが妥当と考える。



国近整企画24号
平成27年 6月16日

福井県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る
対応方針(原案)の作成に係る意見照会について

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成27年7月6日(月)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成26年6月30日(火)までに、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

※ご意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(再評価)

【ダム事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
足羽川ダム建設事業	事業継続	

※貴市の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

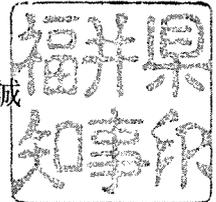


土政推第158号

平成27年6月26日

近畿地方整備局長 様

福井県知事 西川 一誠



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）
の作成に係る意見照会について（回答）

平成27年6月16日付け国近整企画24号で照会のありました標記の件について、下記のとおり回答します。

記

- 1 足羽川ダム建設事業の対応方針（原案）「事業継続」については異存ありません。
引き続き事業を推進し、早期完成に努められるとともに、事業の実施にあたっては建設費用の更なる縮減を図っていただきたい。

2 その他の意見

(イ) 地方への意見聴取

直轄事業負担金の負担者として、事業全体を見て判断する必要があるため、意見聴取に当たっては、今回のように個別箇所だけではなく事業全体の見通しについても意見を述べる機会とするようお願いしたい。

(ロ) 事業評価監視委員会

事業評価監視委員会の委員選定に当たっては、地方を代表する委員も選定するようお願いしたい。